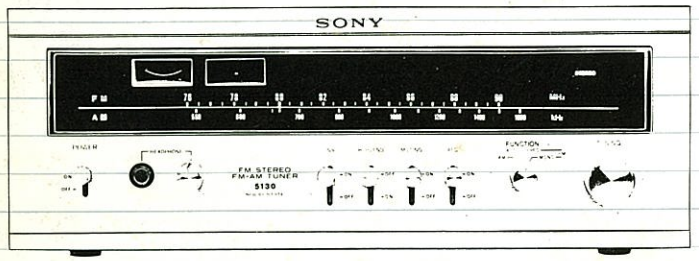
SONY®



ステレオチューナー
ST-5130

取扱説明書

ST-5130は，日本を代表する最高級機ST-5000Fを生んだソニーのオーディオ技術陣が，新たな構想と回路技術の粋を尽してまとめた新鋭機です。
優れたプログラムソースとしてFMの重要性はいよいよ増しています。本格化したFMステレオ放送を聴く楽しみに，またテープライブラリーの作成に，どうぞ十分に生かしてお使いください。


SONY

特　長

FM 放送が，高感度で歪少なく楽しめます

FM チューナーの電波の入口，フロントエンドに MOS トランジスタと FM 5連バリコンを採用した結果，高感度でしかも強電界に強いという性能をみごと両立させました。

IF アンプ部に 8 素子ソリッドステートフィルターを備えたため選択度特性も 100 dB 以上という優れた値を示し，将来予想される FM 局の林立にも備えは万全です。また，対称型ダイオードリミッター 3 段を含む 5 段構成のリミッターにより，優れたキャプチャーレシオおよび高 S/N を得ています。

世界で初めてのインパルス・ノイズ・サプレッサー付きです

従来の FM チューナーでは，自動車のイグニッションノイズや高周波ミシンなどによるパルス性の雑音はある程度避けられないことでした。

本機では新開発のインパルス・ノイズ・サプレッサーを採用しパルス性雑音をシャットアウトできます。大切な録音の途中でふいに混入する雑音は排除され，快適な録音・再生が行なえます。

AM 放送が雑音少なく楽しめます

AM 放送を夜間お聴きになって「ピー」とか「シー」という連続的な雑音（スプリアス雑音，ビート雑音）が多いことに驚かれた経験がおありでしょう。本機では，不要な入力電波をシャットアウトする入力回路，選択度の鋭い IF 回路を採用してこの不快な雑音を減らして，クリヤーな音質にしています。

ステレオヘッドホンが使えます

市販のステレオヘッドホン (8 Ω 以上) が使えますので，FM ステレオ放送もこのチューナーだけで聴けます。ヘッドホン用アンプは低歪・広帯域の優れた特性をもち，音量も自由に調節できます。

選局ズレがありません

信頼性の高い半導体，特殊設計のバリコンおよび新回路の採用により，初期ドリフト・温度ドリフト特性は非常に優れています。一度正しく選局すれば，時間がたってもお部屋の温度が変っても同調点がずれることはほとんどありません。

便利な選局メーター付きです

選局メーターが 2 つ付いています。放送を受けるとチューナーインプットメーターは右に振れます。FM 放送ではさらにチューニングメーターによって完全な同調ができます。

気品あるデザイン

ソニー ST-5000F の流れをくむ ES シリーズの風格あるデザインです。パネル面はダイキャストエスカッションを用いて高い気品を醸（かも）し出しています。ダイヤルは，すでに定評のある高精度な周波数直線型 5 連バリコンを用いています。この結果，FM の周波数目盛は完全なリニアスケール（等間隔）であり，しかも超ワイドなので，見やすくなっています。

このほか

☆高性能ローパスフィルターの採用でキャリァリークがほとんどなく，テープ録音もビート（高音の干渉雑音）のない澄んだ録音ができます。

☆ミューティング回路は FET によるスイッチを採用，このため快適なフィーリングで選局できます。

☆雑音に有利な 75 Ω 同軸ケーブルが簡単に取り付けられるように，同軸ケーブル用入力端子と接続コネクターを付属しています。

☆オシロスコープにつなぐことによりマルチパス現象を目視できる出力端子つき，アンテナ設定の際にきわめて有効です。

使用上の注意

○周囲温度が 0°C 以下または 40°C 以上のところや管球式アンプなど発熱体の上にのせて使うことは避けてください。またチューナーの通風孔はふさがないようにしてください。

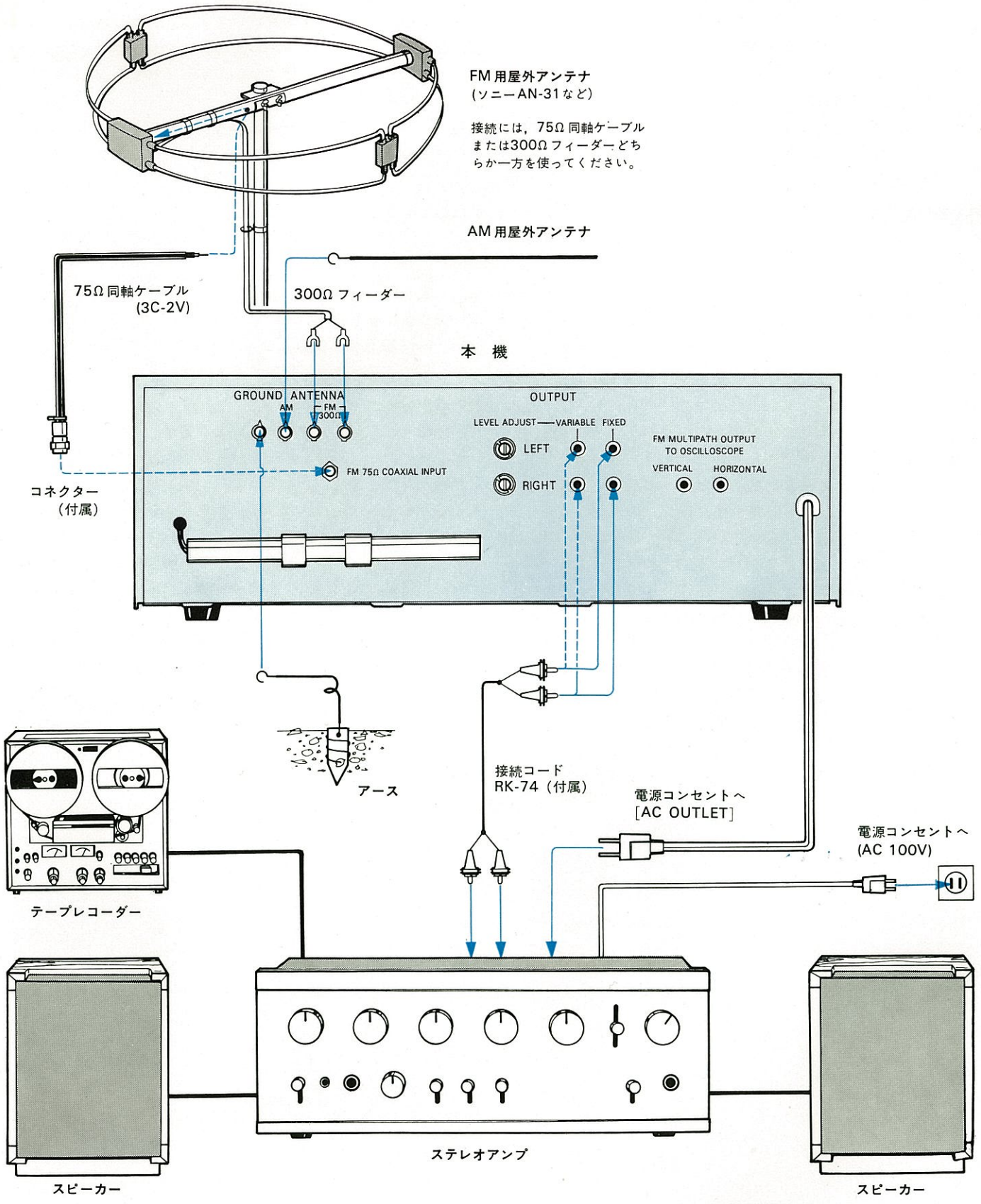
○スピーカーの上など振動が直接伝わるところや，ほこりの多いところで使うことは避けてください。

○電源電圧が 90 V 以下または 110 V 以上になるところでは，電圧調整器で規定の電圧 100V に調節してお使いください。

目　次

接続図 …… 2
各端子のつなぎかた …… 3
　付属のコネクターのつなぎかた …… 3
FM アンテナについて …… 4
各部の名称と使いかた …… 6
放送の聴きかた …… 9
マルチパス出力端子について …… 10
正常に動作しない場合には …… 12
主な規格 …… 14
ブロックダイヤグラム …… 15
特性表 …… 16

接続図


FM用屋外アンテナ
(ソニーAN-31など)
接続には，75Ω同軸ケーブル
または300Ωフィーダーどち
らか一方を使ってください。
AM用屋外アンテナ
75Ω同軸ケーブル
(3C-2V)
300Ωフィーダー
本　機
GROUND
ANTENNA
AM
FM
300Ω
OUTPUT
LEVEL ADJUST
VARIABLE
FIXED
LEFT
RIGHT
FM MULTIPATH OUTPUT
TO OSCILLOSCOPE
VERTICAL
HORIZONTAL
FM 75Ω COAXIAL INPUT
コネクター
(付属)
アース
接続コード
RK-74（付属）
電源コンセントへ
[AC OUTLET]
電源コンセントへ
(AC 100V)
テープレコーダー
ステレオアンプ
スピーカー
スピーカー

○接続コードは静電容量の少ないシールド線（付属品）をお使いください。シールド線を使わないとハム（ブーンといううなり）を拾うことがあります。またコードが長いと（2ｍ以上）高音が減衰することがあります。
○接続コードはしっかり差込んでください。接続がゆるむと雑音の原因になったり音がとだえたりすることがあります。
○マルチパス出力端子については，10頁をご覧ください。

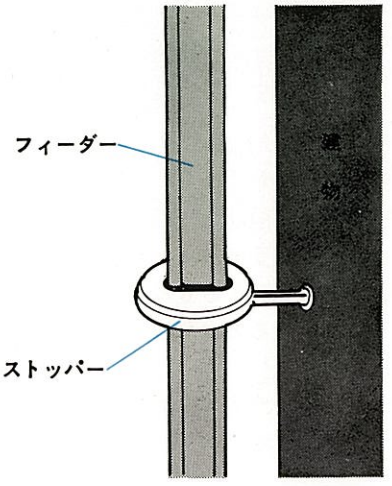
各端子のつなぎかた

FM アンテナ端子

FMアンテナは，接続図に示すように，[FM 300Ω] 端子または [FM 75Ω COAXIAL INPUT] 端子どちらか一方につなぎます（両方につないではいけません）。
雑音をシャットアウトするためには，多少高価ですが同軸ケーブルの方がフィーダーよりも優れています。どちらの場合もアンテナからチューナーまではできるだけ短かい距離で配線してください。
同軸ケーブルを使う場合，一般の FM アンテナでは 300Ω→75Ω の変換器が必要になりますが，ソニーループピックアンテナ AN-31 を利用されると，変換器（75Ω アダプター）がアンテナに付属しているので，そのまま使用できます。

FM 300Ω 端子

300Ω フィーダーを使うときはこの端子につなぎます。
フィーダーの引回しには十分気を配ってください。フィーダーは適度な間隔をおいてストッパー（市販）でとめ，アルミサッシなどの金属からは数 cm 浮かしてください。

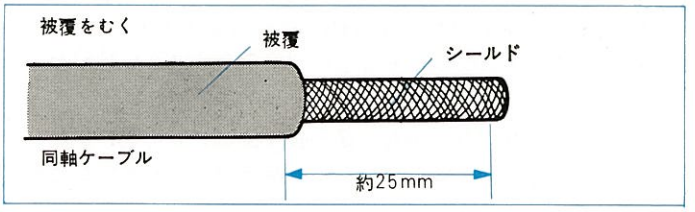


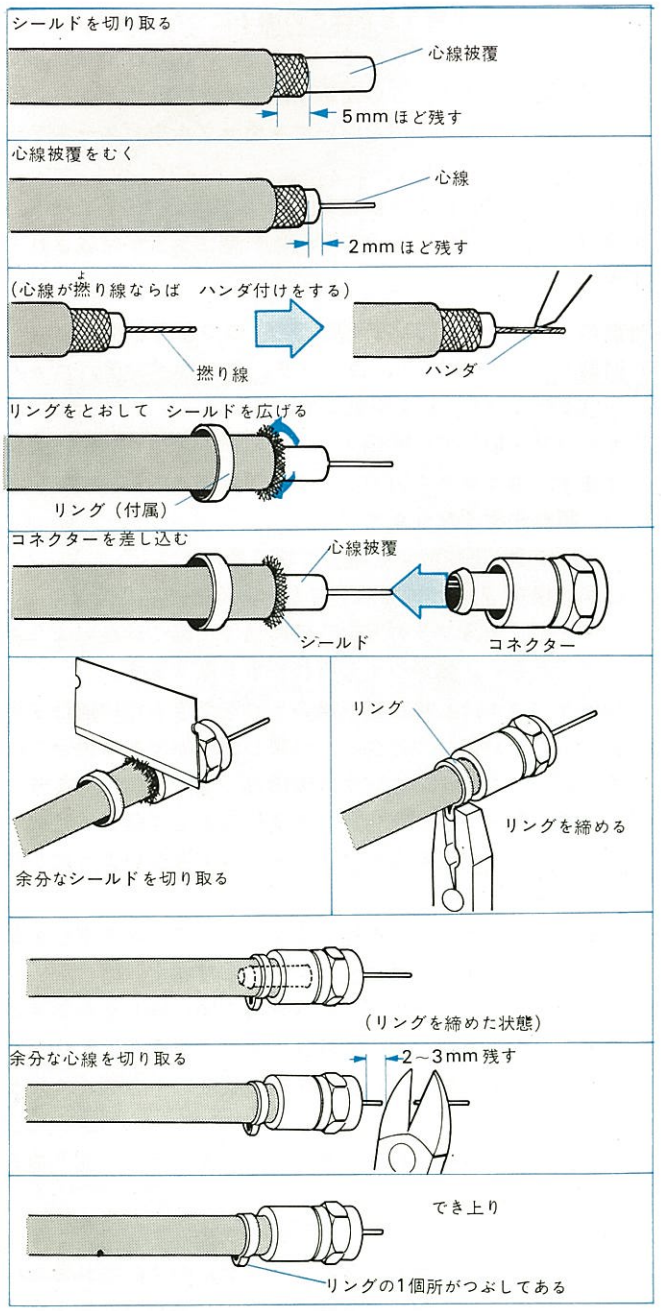
FM 75Ω COAXIAL INPUT 端子

75Ω 同軸ケーブルを使うときはこの端子につなぎます。
同軸ケーブルはシールドされているので FM 信号は雑音から完全に保護されています。このため引回しにあまり気を配る必要はありません。適度な間隔をおいてステップルやビニールテープなどでとめてください。
同軸ケーブルは太さにより数種類ありますが，3C-2V を使うのが適当です。本機には 3C-2V 用 F 型プラグが付属されています。

～付属のコネクター（75Ω F 型プラグ）のつなぎかた～

(1) 同軸ケーブル 3C-2V，カミソリ，ラジオペンチ，ニッパー（またはハサミ）を用意します。
(2) カミソリを使って，同軸ケーブルの被覆を 25mm ほどむきます。カミソリの刃でシールドに傷をつけないでください。折れやすくなります。
(3) シールドを，5mm ほど残して切り取ります。
(4) 心線被覆を 2mm ほど残してむき，心線を出します。
このとき，カミソリの刃を心線に当てて傷つけないようにしてください。傷がつくと折れやすくなります。
○同軸ケーブルは心線が撚り線のものをできるだけ避けて単線のものをお選びください。心線が撚り線である場合には柔らかいので，そのままでは本機につなぐのに不適当です。線を撚ってから全体にハンダ付けをして固めてください。ただしハンダをもりすぎて太くしすぎないようにご注意ください。
(5) 同軸ケーブルにリングを通します。そしてコネクターを差し込みやすくするためにシールドを広げます。
(6) コネクターを，シールドと心線被覆の間に差し込みます。被覆がコネクターのみぞに埋まるまで十分深く差し込んでください。非常にきついので左右に振りながら強く入れます。
(7) はみ出したシールド線はハサミまたはカミソリで切り取ります。
(8) ラジオペンチを使ってリングを締めます。
リングを締めるとやり直しができませんので，これまでの手順がうまくいったことを確かめてから締めてください。
まず，リングを軽くつぶします。つぶれた1ケ所をさらにラジオペンチでつまむようにしてリングを締めます。
(9) 横から見て，心線を 2～3mm 残して切り取るとでき上りです。





FM アンテナについて

～正しく受信するために～

FM 放送は S/N，音質が優れているので Hi-Fi 放送に適しますが，この特長を十分生かすためには良いアンテナが必要です。高性能なチューナーを使っても思うような音質が得られない場合，放送のプログラムソースが悪いのか，アンテナの性能に問題のあることが多いものです。

アンテナは，FM 局から遠い地方では高感度なものを求める必要があります。しかし FM 局に近い都市部では，高感度なアンテナでは入力が大きすぎて，かえって歪んでしまう場合があり，注意を要します。（このような場合には抵抗の組合せによる簡単な減衰器をとりつけてください）最近では FM 局の電波も強くなりチューナーも高感度になりました。従って感度に気を配るよりも，むしろ指向性に特徴のあるアンテナによってマルチパス波（右図参照）をシャットアウトすることが大切です。ソニーではこの目的にあう近郊用アンテナとして AN-31 を販売しております，ルーピックアンテナ AN-31 を高感度な本機と組合わせて使うことによって，ほとんどの地方で良い結果を得ることができます。

設 置 場 所

FM アンテナを建てるときは次のことに注意しましょう。

(1) 建物のかげにならず，FM 局の送信アンテナから電波が直接入る場所が理想的です。ビルの谷間などのように直接波が受けられない場所では実際に試聴しながら場所を選ぶのも一法です。

(2) 道路からなるべく遠ざけて建てます。これは自動車のイグニッションノイズが混入することを避けるためです。

(3) 一般にアンテナは高く建てるほど有利と言われます。しかし場所によっては定在波が立っていることがあり適度な高さがあります。

(4) アンテナを長い間使いますと，向きが変ってしまったり引込み線が切られたりしがちです。風雨に耐えられるようしっかり建てましょう。

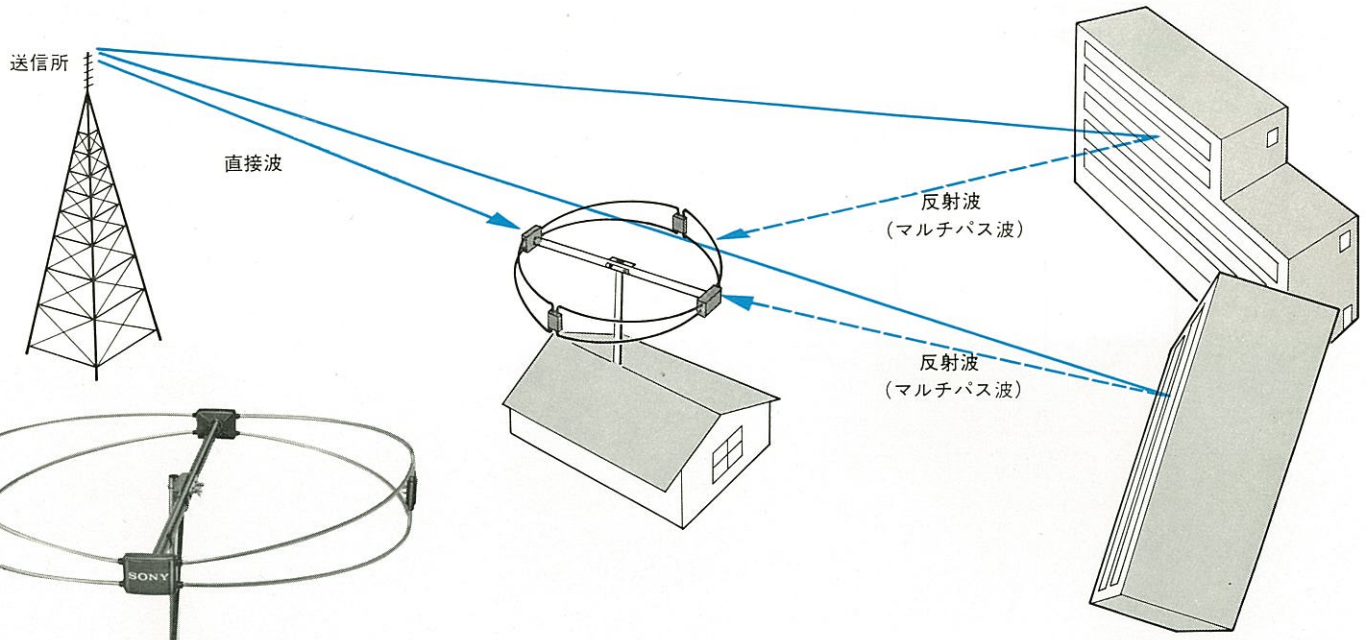
指　向　性

FM アンテナには，一定の角度から来る電波を強く感ずる性質（指向性）があります。アンテナの説明書を見て指向方向を正しく送信所に向けてください。しかしビルの谷間や山かげのように直接波を受けられない場所では，アンテナの向きは送信所と必ずしも一致するものではありません。実際に受信して歪が最も少なくなる方向を探してください。

～付属のフィーダーアンテナについて～

屋外に FM アンテナを建てる間，付属のフィーダーアンテナを一時的に使う場合は FM 300Ω 端子につなぎます。

フィーダーアンテナは T 字形に広げて，FM 放送を受信しながらチューナーインプットメーター（ 8 頁）の針が最も右に振れる方向（またはひずみが少なく最も良く聞こえる方向）を探して，その位置に固定します。小さなクギなどにより T 字形の両端をとめてください。



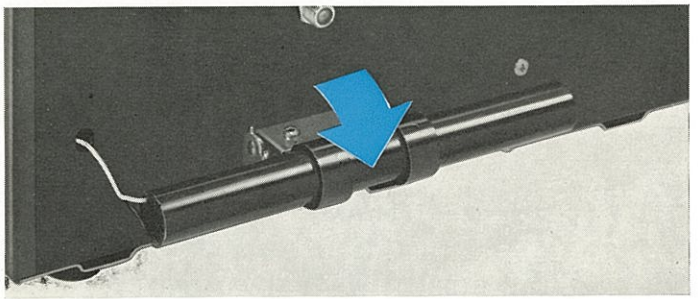
ソニールーピックアンテナ
AN-31 (¥ 3,700)
直径約 94cm

AM アンテナ端子［AM］

ふつう AM（中波）放送を受信するときは，内蔵の高感度フェライトアンテナで十分ですが，電波が弱く AM 放送がよく聴こえないとき，この端子に 5 m 以上のビニール線をつなぎ，窓ぎわや屋外になるべく高く張ります。

フェライトバーアンテナについて

後面のフェライトアンテナは写真のように倒してパネル面から離して使います。



アース端子［GROUND］

通常つなぐ必要はありません。ハムや雑音が多いときは，この端子から地中に埋めた金属棒（銅製）または完全にアースされている水道管（鉛管）につなぐと良くなることがあります。ガス管は危険ですから絶対につながないでください。

電源コード

電灯線コンセント (100V) またはステレオアンプの電源コンセントにつなぎます。このチューナーの消費電力は 25W です。

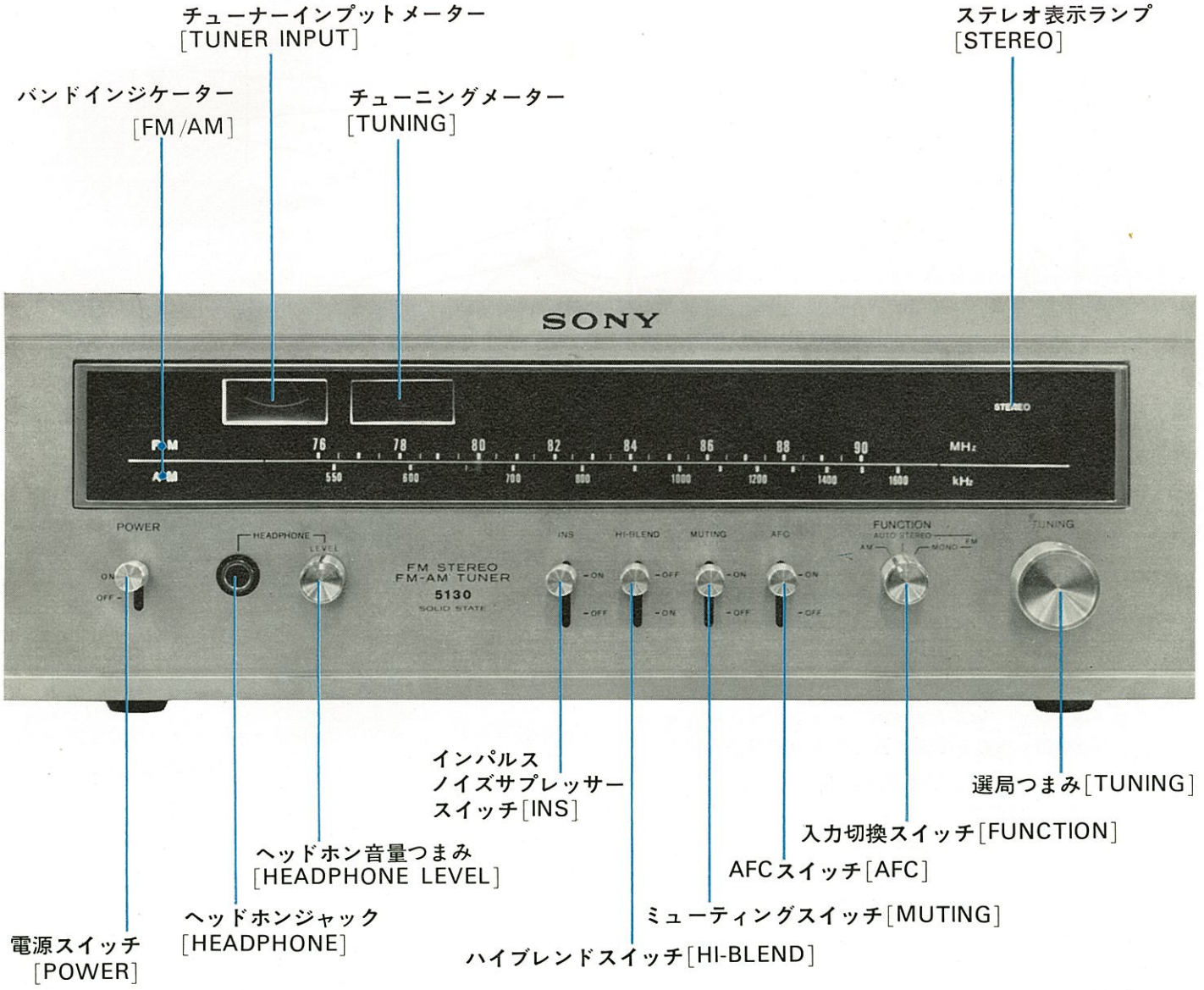
固定出力端子［FIXED］

通常はこの端子からステレオアンプのチューナー端子［TUNER］につなぎます。
付属の接続コードRK-74を使い，固定出力端子の LEFT，RIGHT とアンプのチューナー端子の LEFT，RIGHT とをそれぞれつなぎます。接続コードのプラグは色分けしてあり，ふつうは赤色を RIGHT に，もう一方を LEFT につなぎます。この端子の出力は 750mV，出力インピーダンスは約 10kΩ です。

可変出力端子［VARIABLE］

この端子は，接続するアンプの入力感度が非常に低いときや，逆に高すぎるときに使います。ステレオアンプにつないでいるテープレコーダーまたはレコードプレーヤーなどとレベルを合わせてお使いください。
レベルの調節は出力レベル調節つまみで行ない，可変範囲は 0～2Vです。(8 頁参照)

各部の名称と使いかた

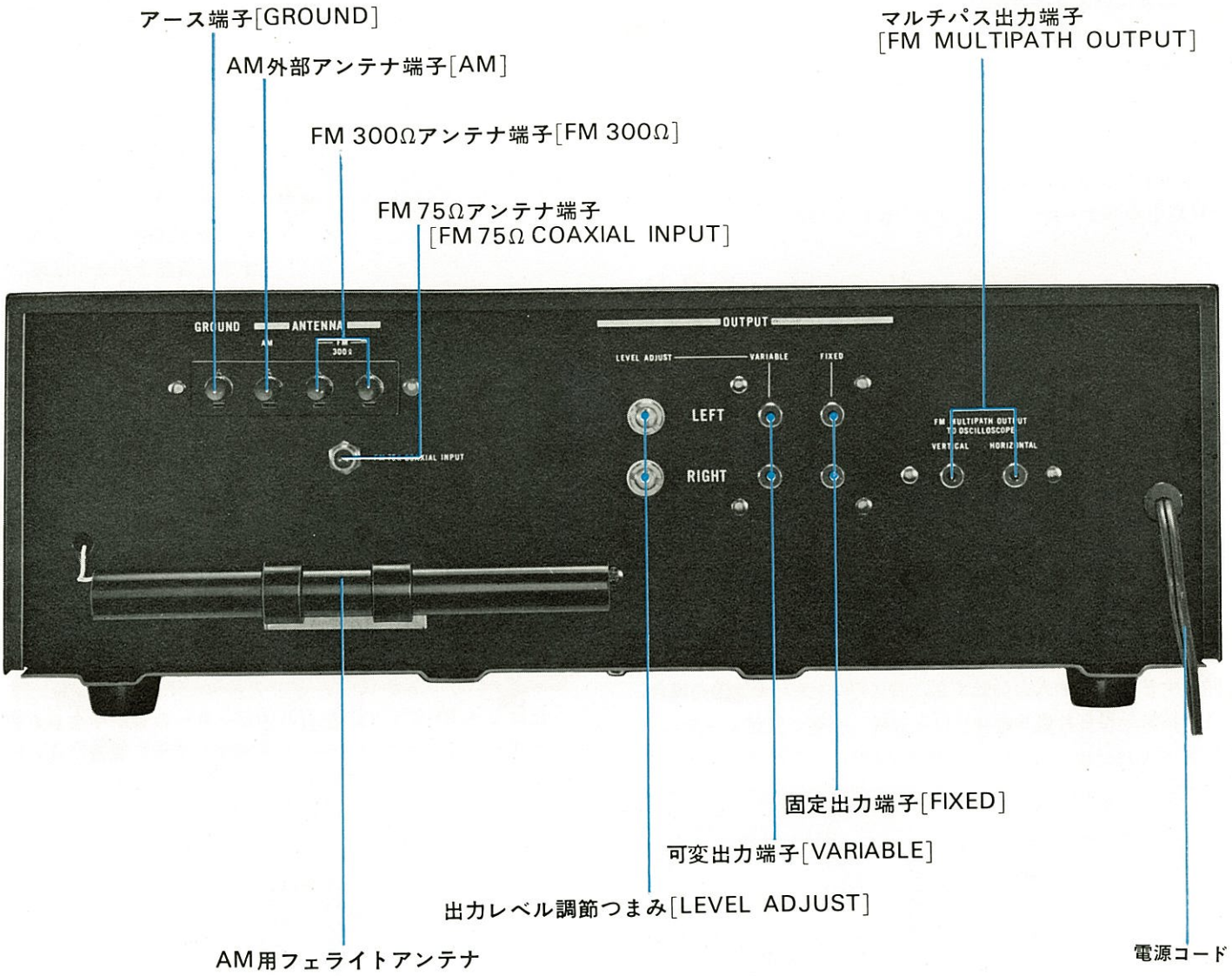


電源スイッチ［POWER］
電源コードを電源コンセントにつなぎ，このレバーをONにすると電源が入り，ダイヤル面が明かるくなります。

入力切換スイッチ［FUNCTION］
［AM］.....AM（中波）放送を聴くとき。
［FM AUTO STEREO］...FM放送を聴くときは通常この位置にします。この位置にすると，ステレオ放送のときはステレオに，モノ放送のときはモノに回路が自動的に切替わります。またステレオ放送のときはステレオ表示ランプがつきます。
［FM MONO］.....FM放送を聴くとき。この位置にすると，ステレオ・モノ放送に関係なく，すべてモノ動作になります。電波が弱すぎてステレオで雑音が多い場合，またはモノアンプにつないだときにこの位置で使います。

バンドインジケーター［FM/AM］
入力切換スイッチを［AM］にしたときはAMのランプ（緑色）が，［FM AUTO STEREO］または［FM MONO］にしたときはFMのランプ（赤色）がつきます。

ミューティングスイッチ［MUTING］
FM局を選局するとき，このスイッチをONにしておくと，局と局との間で出る雑音を取り除くことができます。
通常はONのままでかまいません。ただし到来電波があまりに弱い局は，このスイッチをONのままでは受信できないことが



あります。このような局を聴くときはOFFにします。そして離調時には雑音が出ますので音量を絞って選局してください。

AFCスイッチ［AFC］

FM局を選局するとき，このスイッチをOFFにして同調した後ONにすると，同調がずれることなく完全な同調が保たれます。AFCのON-OFFによって他の特性には全く影響がありませんので，歪の少ない最良点を維持するためにONに保ってください。またONにしたまま選局するときは，見かけ上同調点が広がりますのでFM局の同調が容易に行なえます。

ハイブレンドスイッチ［HI-BLEND］

FMステレオ放送で高音域の雑音を除くためのスイッチです。ONにして聴きますとハイブレンド回路が働き，十分なS/Nが得られない場合にもきれいな音で受信できます。電波が弱い局はハイブレンドスイッチをONにして聴くと効果的です。

モノ放送のときはどの位置にあっても影響しません。

☆一般にステレオ感は中高音域で強く感じます。ハイブレンド回路は雑音が比較的耳ざわりになる高音域を左右混合し，雑音成分を打消しあい，ステレオ感を聴感上そこなうことなくS/Nの向上をはかるものです。十分なS/Nが得られない弱いステレオ電波も雑音少なく聴くことができます。

インパルス・ノイズ・サプレッサースイッチ［INS］

本機では，対称型ダイオードリミッター3段を含むリミッター増幅5段の優れたIFアンプ部を備えていますので，かなりの程度パルス性雑音を除けますが，さらにこのスイッチをONにしますと，新開発のインパルス・ノイズ・サプレッサー回路が

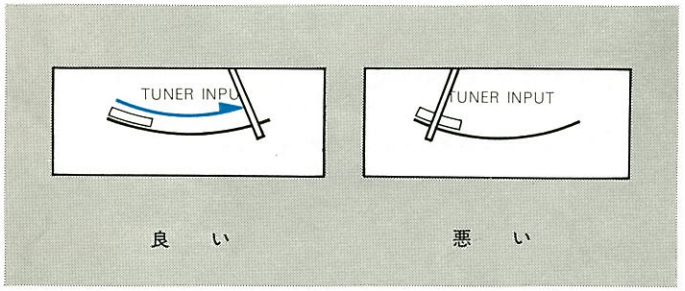
働き，強力なインパルス性雑音もシャットアウトします。近くでモーターバイクや自動車が通りイグニッションノイズを発生しても，問題はありません。万一，パルス幅の非常に長い特殊な連続雑音が入った場合，大きな効果が期待できないこともあります。それぞれの場合に応じて使い分けてください。

ヘッドホンジャック［HEADPHONE］
8Ω以上のステレオヘッドホンをお使いください。

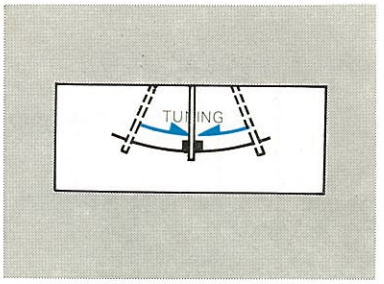
ヘッドホン音量つまみ［HEADPHONE LEVEL］
このつまみでヘッドホンの音量を調節します。

選局つまみ［TUNING］
このつまみを回してお望みの放送局を受信します。放送を受けるとチューナーインプットメーターの針が右に振れます。
FM 放送の場合は，このほかチューニングメーターによって完全に同調をとることができます。

チューナーインプットメーター［TUNER INPUT］
このメーターはアンテナの入力レベルを示します。放送を受けて，針が最も右に振れる位置が最良の同調点です。針が赤の範囲ですとアンテナ入力が低すぎ，特にFMステレオ放送の場合，良い結果が得られません。



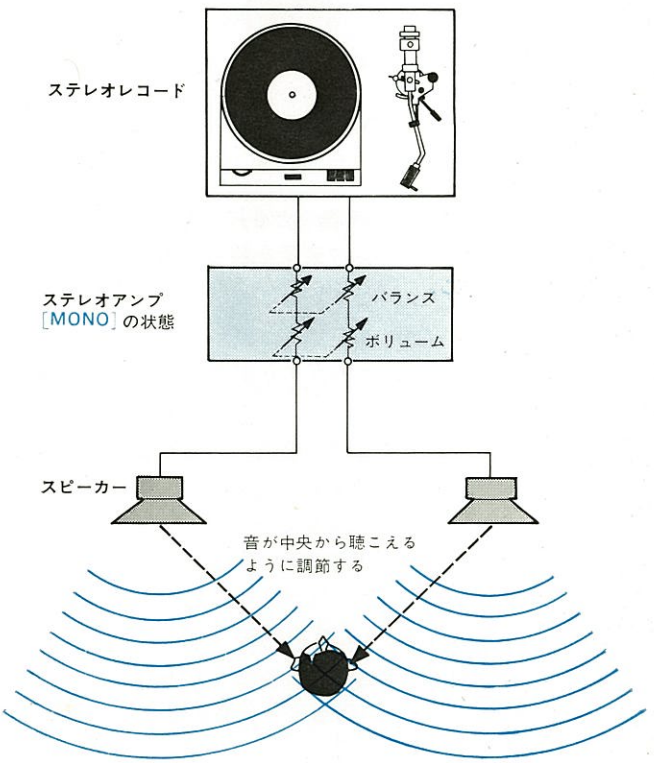
チューニングメーター［TUNING］
FM 放送の場合，チューナーインプットメーターで同調点をとり，その後このチューニングメーターの針が中央に来るように選局つまみを調節するとFM放送が正確に同調できます。(AM放送では，このメーターは使わないので，メーターの照明ランプがつきません)
メーターの針はFM放送を受けていないときは真中（中央）になっており，放送に同調するに従い右または左に振れ，完全に同調すると真中になります。さらに回してゆくと針は逆に左または右に振れ，完全に離調すると真中に戻ります。



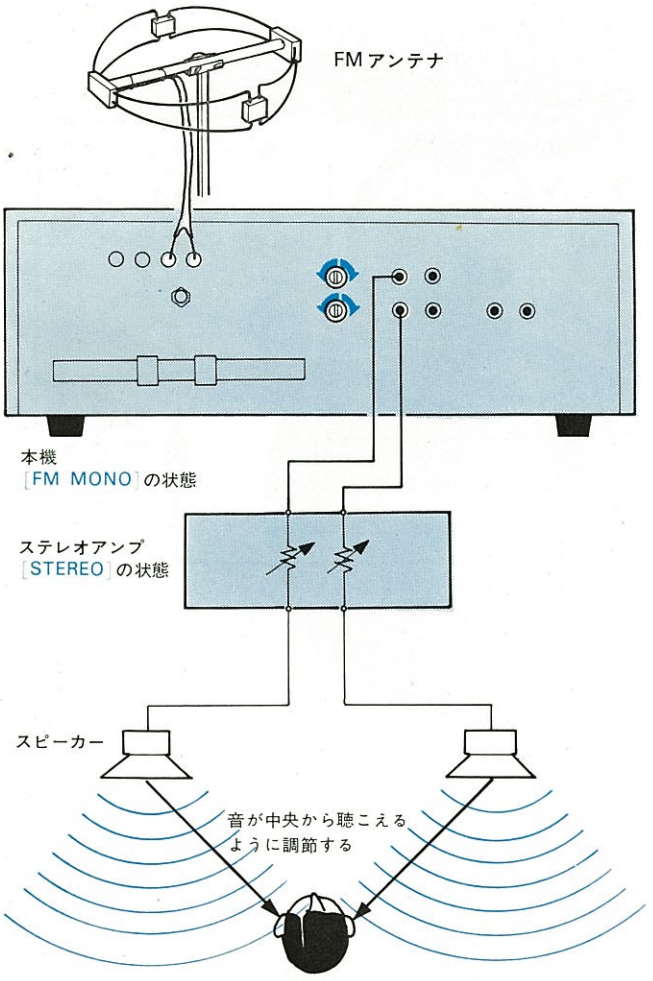
ステレオ表示ランプ
入力切換スイッチを［FM AUTO STEREO］の位置にしておくと，FM ステレオ放送を受信した場合，このランプが自動的につき，STEREO の文字が赤く照明されます。

出力レベル調節つまみ［LEVEL ADJUST］**(裏面パネル)**
可変出力端子の出力レベルを調節するつまみです。右（∩）に回すと出力が大きくなります。
調節は次のように行なってください。

(1) 先ずアンプのバランスを調節します。
ステレオアンプにレコードプレーヤー（またはテープレコーダー）をつなぎます。アンプのモードは［MONO］(またはL＋R) にして，左右のスピーカーの音が中央から聴こえるように左右のバランスを調節します。音量は通常聴く大きさにします。



(2) 次に本機を調節します。
アンプの入力切換スイッチをレコードプレーヤーからチューナー（本機）に切替えます。ステレオアンプのモードは［STEREO］にして，左右のバランスと音量は前記の状態にしておきます。
本機の入力切換スイッチを［FM MONO］にしてFM放送を受信します。出力レベル調節つまみをLEFT，RIGHTとも回して，音量がレコードを聴いたときと同じになるようにあわせ，左右の音が真中から聞こえるように出力レベル調節つまみを補正します。



AM（中波）放送

(1) 入力切換スイッチを［AM］の位置にします。
(2) チューナーインプットメーターの針を見ながら選局つまみを回して，お望みの放送局を受信します。チューナーインプットメーターの針が最も右に振れる位置が最良の同調点です。

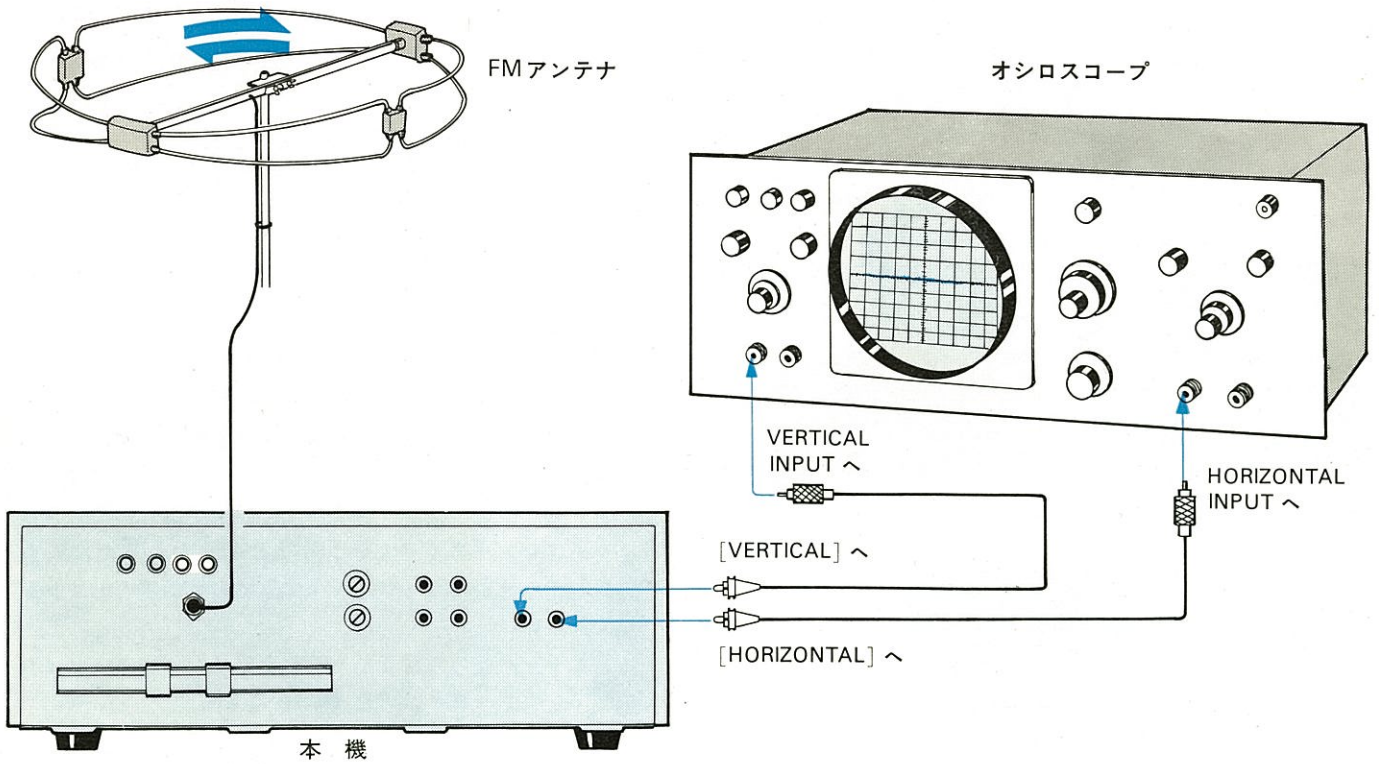
FM放送

(1) 入力切換スイッチを［FM AUTO STEREO］の位置にします。
(2) AFCスイッチを［OFF］の位置にします。
(3) ミューティングスイッチは必要に応じて［ON］または［OFF］にします。
(4) チューナーインプットメーター，チューニングメーターを見ながら，選局つまみでお望みの放送を受信します。放送がステレオであればステレオ表示ランプがつき，ステレオとして受信されます。
(5) AFCスイッチを［ON］の位置にします。
(6) ステレオアンプの音量，音質つまみを調節して，お好みの音でお聴きください。
ステレオ放送の場合，雑音が出て放送が聞きにくいときはハイブレンドスイッチを［ON］にします。または入力切換スイッチを［FM MONO］にしてモノ放送としてお聞きください。
またインパルス性雑音が入るときはインパルス・ノイズ・サプレッサースイッチを［ON］にします。

マルチパス出力端子について

マルチパスとは，電波が山や建物などにぶつかって反射して種々異なった径路を通ってくる反射波と，送信アンテナから直接到達してくる直接波とが同時にアンテナに入ってくることを言います。
直接波と反射波とがアンテナに入りますと，到着した2つの波は時間がズレて到達するため，これらの間で合成波が生じて，AM 変調（ビート）および位相変調をおこす結果，それらが歪となります。

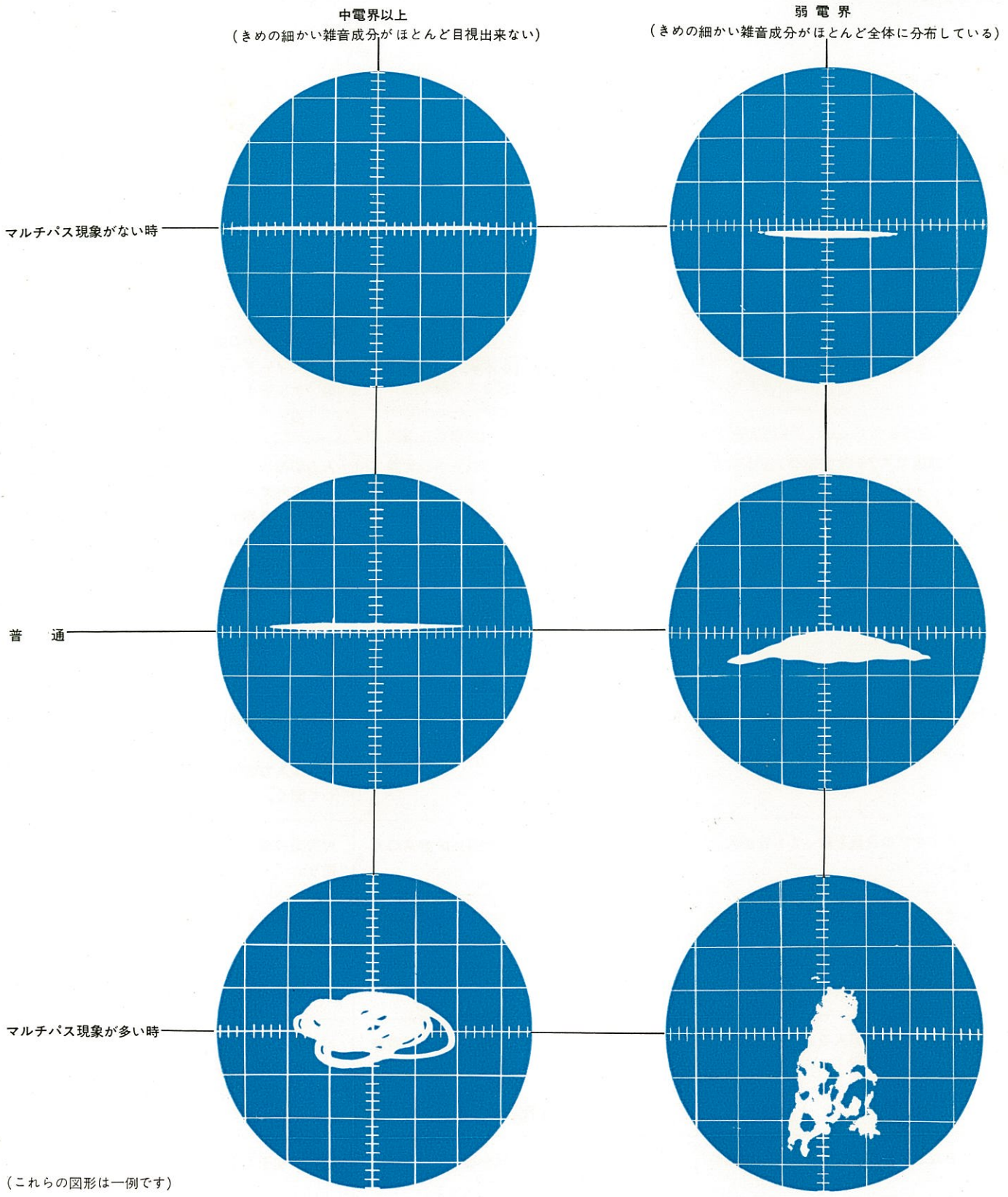
AM 変調分はリミッターによって除かれますが，位相変調分はそのまま歪率，分離度を悪くします。従ってアンテナは指向性の鋭いものを使い，できるだけ反射波が入らず，直接波が入る方向を見つけて建ててください。
マルチパス出力端子の出力をブラウン管オシロスコープに加えますと，オシロ図形を見ながらマルチパス波が最も少ないようにアンテナの方向を決めることができます。



操　作

(1) 上図のように接続します。
(2) 希望 FM 局を受信し，チューニングメーターを見ながら正確に同調させます。
このときマルチパス出力端子には次のような出力が出ています。
HORIZONTAL 出力端子……この端子には FM 検波出力（音声）が出ます。音声の大きさに比例して出力電圧が変化します。
VERTICAL 出力端子……マルチパスによる AM 変調分を検波した出力が出ます。マルチパス波が全くなければ，この出力は出ません。従ってこの出力は少ないほど良いことになります。
(3) オシロスコープの感度は VERTICAL，HORIZONTAL 共，5 mV/cm 程度に調節してオシロ図形を出します。波形の振幅が見やすいように，オシロスコープの感度をあわせてください。
(4) オシロ図形はマルチパス波の多少により図のように変わります。なるべく良い図形が得られるように FM アンテナの向きを決めてください。

MULTIPATH 現象のオシロ図解 (Tuning は Tuning Meter により行なうこと)



(これらの図形は一例です)

正常に動作しない場合には —サービスマンをお呼びになる前に—

チューナーが正常に動作しない場合には，つぎの表に従って処置してください。

これらの処置をしても直らない場合，またこれ以外の症状の場合は，チューナーの故障も考えられますので，ソニーサービスセンターまたはご相談センターにご相談ください。

FM 放送のときに起こる症状

症　　状	原　　因	処　　置
チューナーインプットメーターとチューニングメーターは振れるが音が出ない。	接続コードの接触不良。	接続コードの接続を確かめる。
チューナーインプットメーターがふらふらする。	a) 到来電波の乱れ。 b) 飛行機が飛んでいるとき。	a) アンテナの設置場所，指向性を再検討する。
チューナーインプットメーターは右いっぱいに振れ，音にひずみ，ビートがある。	a) 電波が強すぎる。 b) 電波の多重伝ぱん（マルチパス）がある。	a) アンテナの設置場所を変えるか，付属のフィーダーアンテナを使う。 b) アンテナの設置場所，指向性を再検討する。
ステレオ放送でステレオ表示ランプがつかず，ステレオにならない。	電波が弱い。	入力切換スイッチを［FM MONO］にして聞く。室内アンテナの場合は，屋外アンテナに変える。屋外アンテナの場合は，設置場所，指向性を再検討する。
ステレオ表示ランプが点滅する。	a) 電波が弱い。 b) 電界の大幅な変動がある場合（電波の乱れ）。	a) アンテナの設置場所，指向性を再検討する。 b) 上と同じ，または入力切換スイッチを［FM MONO］にして聞く。
ステレオ放送で雑音が多い。	電波が弱い（チューナーインプットメーターで判断する）。	アンテナの設置場所，指向性を再検討する。ハイブレンドスイッチを［ON］にして聞く。または入力切換スイッチを［FM MONO］にして聞く。
ステレオアンプの音量を絞っても音が大きすぎる。	ステレオアンプのゲイン（利得）が非常に大きい場合。	可変出力端子を使用し，出力レベルを絞って使う。
ステレオアンプの音量を相当上げないと音が小さすぎる。	ステレオアンプの利得が非常に小さい場合。	可変出力端子を使用し，出力レベルを上げて使う。
ハム雑音が入る。	接続コードの接触不良。	接続を確かめる。
自動車が通ると雑音が入る。	a) アンテナの設置場所不適当，または電波が弱い。 b) 同調がずれている。	a) アンテナの指向方向へ道路がこないように場所を選ぶ。また道路から離す。 b) チューニングメーターをみて同調を正しくとり直す。
雷雨の日などケースに手をふれると電気がくる。 (AM 放送の場合も起こる)	屋外アンテナが雷の静電気を拾う。	アース端子より完全に接地する。

AM 放送のときに起こる症状

症　　状	原　　因	処　　置
ジーッという雑音 (夜間や電波が弱い局ほど大きい)	螢光灯など電気器具から出る雑音。	電気器具から，フェライトバーアンテナや外部アンテナをなるべく離す。また良い方向，良い位置を探す。AM用外部アンテナ (5m以上) を高く張る。
チーッという高い雑音	a) テレビから出る雑音。 b) 放送局 (隣接局) の干渉によるビート (とくに夜間に大きい)。	a) テレビを消す (近所のテレビによることもある)。 b) ステレオアンプの高音フィルタースイッチを使う。
時々ザッという雑音が入る。	a) 雷による雑音。 b) 螢光灯の点滅による雑音。	b) 螢光灯から，アンテナをなるべく離す。また良い方向を探す。
放送に合わせるとブーンと同調ハムが入る。	アンテナが電源コードに近い。	アンテナを電源コードから離す。 電源コードの差し込みを逆にしてみる。

主な規格

回路方式	スーパーヘテロダイン方式
トランジスタ	受信回路 FET 4石　トランジスタ 22石 付属回路 FET 5石　トランジスタ 24石
ダイオード	41個

〈FM チューナー部〉

アンテナ端子	300Ω 平衡型 75Ω 不平衡型(同軸ケーブルコネクター)
受信周波数	76 MHz～90 MHz
中間周波数	10.7 MHz
実用感度	1.5 μV (IHF 規格)
感度	1.2 μV (S/N＝30dB)
S/N	75 dB
キャプチュアレシオ	1 dB
選択度	100 dB (IHF 規格)
イメージ妨害比	100 dB
IF 妨害比	100 dB
スプリアス妨害比	100 dB
AM 抑圧比	60 dB (IHF 規格)
周波数特性	20 Hz～15,000 Hz ±1 dB
歪率	モ　ノ 0.2% (400Hz, 100%変調時) ステレオ 0.3% (400Hz, 100%変調時)
FM ステレオセパレーション	42 dB 以上 (400Hz)
19kHz, 38kHz 抑圧比	60 dB
定格出力	固定出力 [FIXED] 750mV, 出力インピーダンス 10kΩ (100% 変調時) 可変出力 [VARIABLE] 0～2V, 出力インピーダンス 1.8kΩ (最大出力にて, 100% 変調時) マルチパス出力 [MULTIPATH OUTPUT] 150 mV, 出力インピーダンス 18kΩ (VERTICAL, HORIZONTAL 出力とも)

〈AM チューナー部〉

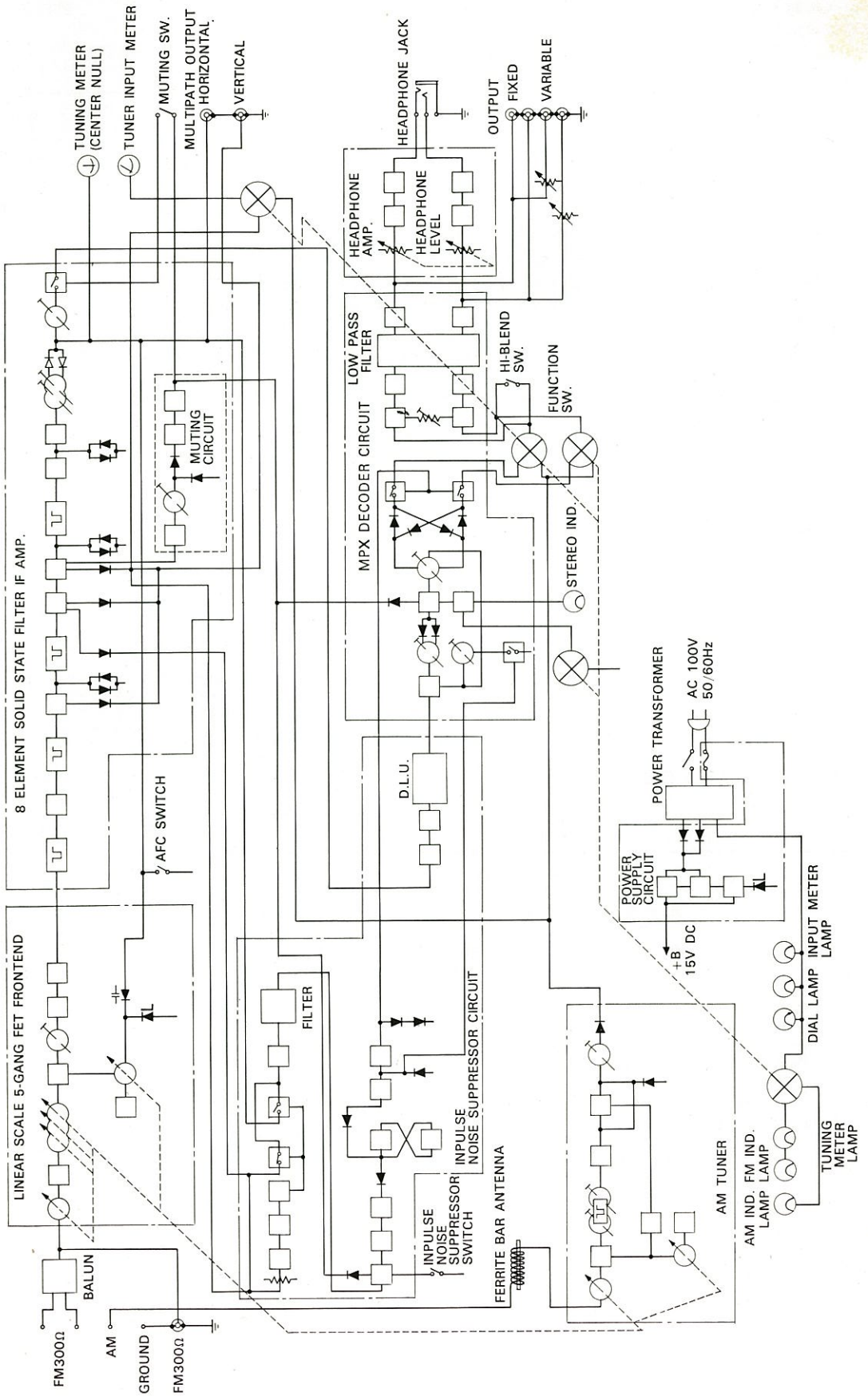
アンテナ端子	フェライトバーアンテナ　外部アンテナ端子つき
受信周波数	530kHz～1,605kHz
中間周波数	455kHz
感度	50 dB/m (バーアンテナ使用時) 30 μV　(外部アンテナ使用時)
S/N	50 dB
イメージ妨害比	45 dB (1,000kHz)
IF 妨害比	41 dB (1,000kHz)
歪率	0.6%

〈電源部・その他〉

電源	AC 100V　50/60Hz
消費電力	25W
大きさ	400 (幅)×149 (高さ)×344 (奥行) mm
重さ	7.5kg
付属品	FM 用フィーダーアンテナ ..... 1 接続コード RK-74 ..... 1 ポリッシングクロス ..... 1 75Ω F 型プラグ..... 1

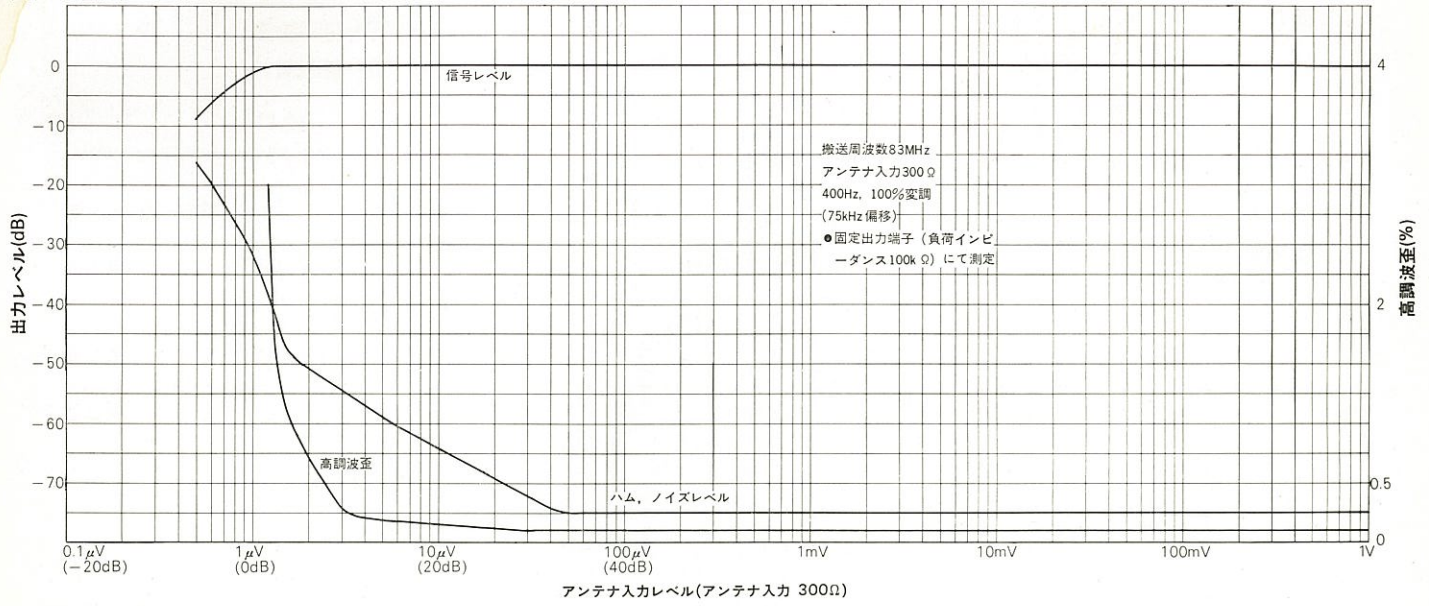
○本機の規格および外観は，改良のため予告なく変更することがありますがご了承ください。

ブロックダイヤグラム

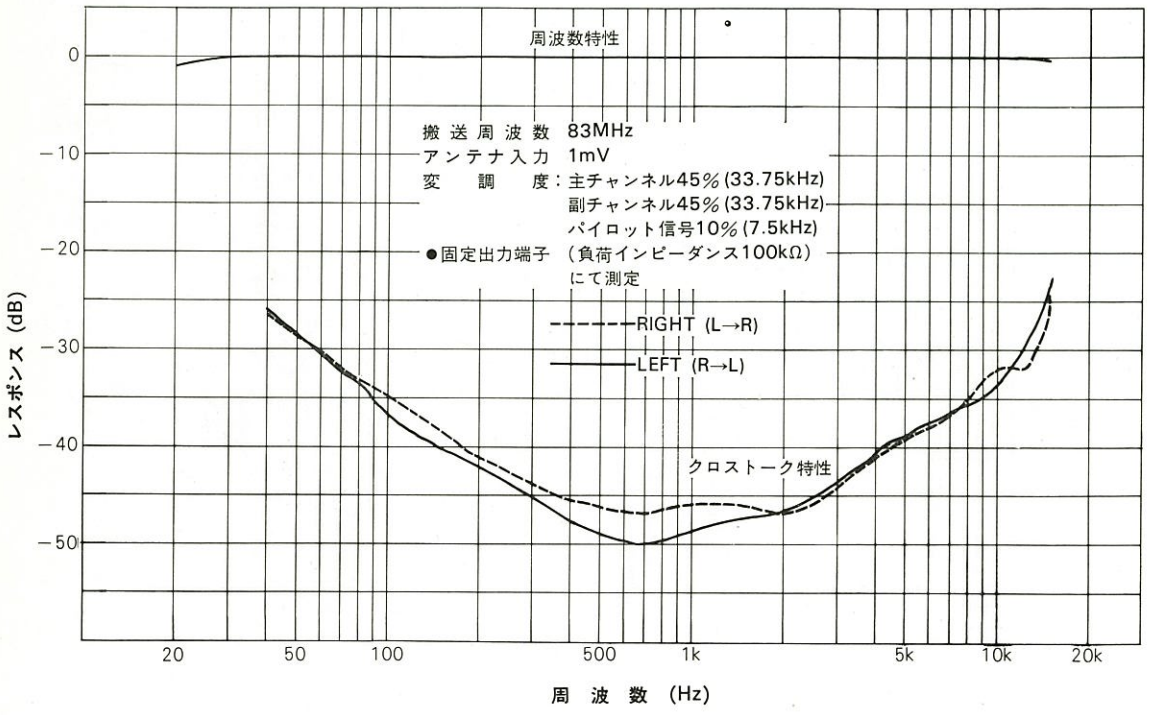

TUNING METER (CENTER NULL)
TUNER INPUT METER
MUTING SW.
MULTIPATH OUTPUT HORIZONTAL
VERTICAL
HEADPHONE JACK
OUTPUT
FIXED
VARIABLE
HEADPHONE AMP.
HEADPHONE LEVEL
LOW PASS FILTER
HI-BLEND SW.
FUNCTION SW.
MPX DECODER CIRCUIT
STEREO IND.
8 ELEMENT SOLID STATE FILTER IF AMP.
MUTING CIRCUIT
AFC SWITCH
D.L.U.
POWER TRANSFORMER
AC 100V 50/60Hz
POWER SUPPLY CIRCUIT
+B 15V DC
LINEAR SCALE 5-GANG FET FRONTEND
FILTER
INPULSE NOISE SUPPRESSOR CIRCUIT
INPULSE NOISE SUPPRESSOR SWITCH
FERRITE BAR ANTENNA
AM TUNER
AM IND. FM IND. LAMP LAMP
DIAL LAMP
INPUT METER LAMP
TUNING METER LAMP
BALUN
FM300Ω
AM
GROUND
FM300Ω

特 性 表

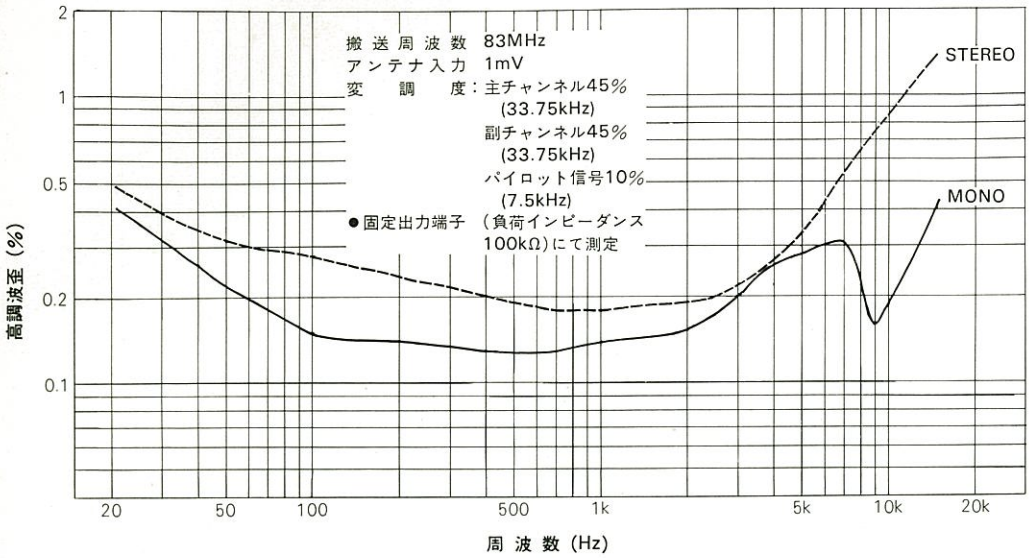
出力信号とノイズレベル対入力レベル
高調波歪対入力信号レベル



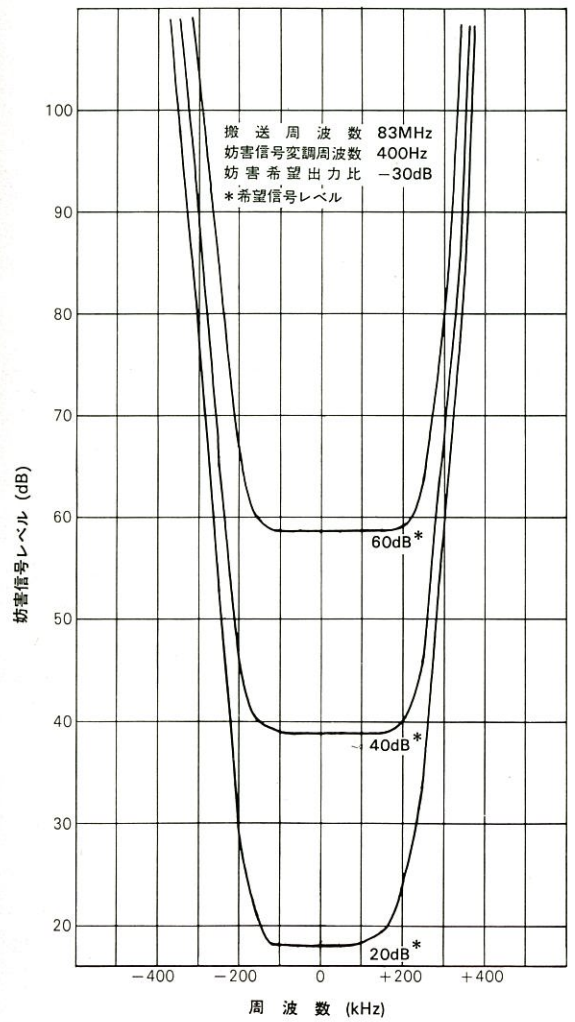
周波数特性(ステレオ)　クロストーク特性



高調波歪対周波数特性



選択度特性



アフターサービスとソニー商品についてのお問い合わせ，ご相談は添付の「サービス窓口のしおり」をご覧ください。

3-790-990-**01** (2)

ソ ニ ー 株 式 会 社

Tokyo Japan ©